

## 令和5年度第1回 荒川区芸術文化推進会議 議事録

日 時	令和5年7月21日(金) 16:30~17:45
会 場	区役所4階 庁議室
出 席 者	<p>&lt; 委員 &gt; 本郷寛座長、平野千里委員、菅谷安男委員、久田由美子委員、 田中豪元委員、大村みさ子委員、中村泰士委員、宮腰肇委員、 北川嘉昭委員(荒川区副区長)、谷井千絵委員(荒川区地域文化 スポーツ部長)、三枝直樹委員(荒川区教育委員会事務局教育部長)</p> <p>&lt; 事務局 &gt; 須田文化交流推進課長 中館計画調整担当係長、白石文化振興係主事</p> <p>&lt; オブザーバー &gt; 青谷生涯学習課長、山下ゆいの森課長、矢代観光振興課長</p>
議事要旨	<p><b>1 令和4年度の取組状況、成果について</b> 芸術文化振興プランに記載のある事業の進捗状況について報告</p> <p><b>2 芸術文化振興基金について</b> 基金活用実績(令和4年度)と活用予定(令和5年度)の報告</p> <p><b>3 荒川区芸術文化振興プランの改定について</b> (1) プランの改定について(方向性、スケジュール等) (2) 令和4年度世論調査実施結果について (3) プラン(第三次)の成果と評価等について (4) 国・東京都の動向について 芸術文化振興プランの改定、令和4年度に実施した世論調査結果、芸術文化振興プラン(第三次)の評価等について、事務局より説明</p>

## (5) プラン改定に向けた検討の視点について〈意見交換〉

令和4年度に実施した世論調査結果において、区の芸術文化で特色がある分野について、「わからない」の回答がかなり多い。荒川区の文化財にもなっている「天王祭」や区の財産でもある「荒川少年少女合唱隊」の活動をさらに広くPRしていく必要があると考える。

また、子ども達が花火や凧揚げをして遊ぶことができる公園が最近減ってきている。このような伝統的な遊びが、荒川区の文化や伝統に繋がるのではないか。

子ども達がそうした遊びに関わる機会を作るため、ふれあい館や荒川遊園等で、可能な範囲で調整している。実際の公園の中でどういったことができるかについては、個別に検討していく必要があると考えている。

荒川区発祥といわれている紙芝居や、ぬり絵美術館の塗り絵、「あしたのジョー」など、庶民の文化で荒川区独自の文化を、子ども達が自慢に思える文化として引き継いでいただきたい。

また、荒川区には平野先生の作品など、多くの彫刻作品を設置しているが、彫刻に限らず、荒川区在住のアーティストの絵画や書なども、区民が身近に見ることが出来る場所にあるといいと思う。

紙芝居や塗り絵は、まさに地域の財産であり、しっかりと継承をしていきたいと考えている。ぬり絵美術館の作品については、区に寄贈いただいたところがあるので、それらの文化を伝えていきたい。紙芝居や塗り絵など、個別の具体的なものをどのようにこのプランに落とし込むか検討していく必要がある。

区の街なか美術館事業について、外に設置可能な素材が限定されるため難しい部分もあるが、街の中に彫刻の作品があるということは、街の中の美術館のような感じで良いと思う。

また、町屋の文化センターの「なないろひろば」がリニューアル後、かなり綺麗になって使いやすくなったが、最終目標として、すぐに絵画等を展示することができる独立したギャラリーが荒川区内にできたらいいと思う。

荒川区は伝統文化、和の文化の方に力を入れているように感じており、また費用面で、バレエ(洋舞)を始める敷居が高いと思われる傾向にある。ただ、文化団体連盟の文化祭などでは、バレエ(洋舞)に興味を持っている子どもが多い。あまり敷居を高くせずに、学校の体育館で、基本姿勢を身に着けるための出前での指導などができるといいと思う。

学校で、将棋や碁の基本を年に1、2回くらい教えてもらえるような機会があるといいと思う。

最近開催した、伝統工芸技術展では久しぶりのフルスペック開催で1万人の来場者があり、非常にありがたいと感謝している。今後も伝統工芸保存会として、さらに前向きに取り組を進めていきたい。保存会の会員自体が減ってきているので、会長就任後のこの4月に、匠育成事業の卒業生4人を迎え入れたところである。これからの期待したい。

都電を大事にしたらいいいと思う。荒川区を良くするため、区を自慢に思うためには、区外の人に「荒川区っていいところ」と思ってもらう必要がある。そのためには、都電から降りたところから、区外から荒川区に来た人達にとって、サンパール荒川等の表示がわかりやすくなっているといいと思う。

また、汐入で学校の先生に書道を教えているが、鉛筆やボールペンと違い、書道は練習しないと上達しない。小学校では教員が一人で全てを教えなければならぬため、専門家が(授業に)入った方がいいと思う。

コロナ禍においては、定員を抑制していたため、あまり会場の大きさ等の制約がない中で、ある意味自由にできた部分があった。現在は、文化芸術活動が活発になってきて、限られた会場の中でどれを組み合わせるのか、限られた資源の中でどこに重点を置いて進めていくのか悩ましい状況がある。まさにこの芸術文化振興プランについても、どこに特色を持たせるのかということ意識してまとめていく必要があると思う。

今回、委員の皆様からいただいたご意見をもとに、プラン改定に向けた方向性や視点を整理いただくようお願いしたい。

#### 4 今後の予定について

次回の開催日（11月の下旬から12月上旬頃を予定）及び議題（第四次プランの素案へのご提言）について事務局より説明